

氷川神社  
社報 第二十七号

# 武蔵一宮





例祭  
齋行



八月一日午前十時より例祭を齋行致しました。畏き辺りより勅使として掌典の羽倉信夫様御参向のもと厳肅に行い、東游の奉奏を頂き、皇室の弥栄と氏子崇敬者の幸福を祈念致しました。

神社本庁統理の御名代に神社本庁総長である石清水八幡宮の田中恆清宮司(京都府)、埼玉県神社庁庁長である高麗神社の高麗文康宮司、大野隆司総代会長はじめ氏子総代、清水勇人さいたま市長、県内神職、招待した崇敬者など約二五〇名の御参列を頂きました。また、四年ぶりに直会を執り行いました。勅使奉迎のため、参集した町内山車神輿は四十三基にのぼり、コロナ禍の前の活気が境内に戻って参りました。

雪洞書画奉納御礼

例祭に際し左記の皆様より雪洞書画の奉納を頂きました。御篤志に感謝申し上げます。(順不同敬称略)

- 内田 すす子
- 堀澤 節
- 山田 郁子
- 小林 瞳
- 牧野 安甫
- 飯野 直紀
- 加藤 正
- 鮎島 雲外
- 金田 石城
- 山北 知子
- 清水 昌子
- 島崎 英子
- 吉澤 公子
- 久保田 満寿
- 吉田 ゆき江



# 大宮夏祭り開催

当社例祭にあわせ行われておりました大宮夏祭りが四年ぶりに開催されました。大宮駅東口では中山道まつり(八月一日・二日)が開催され、山車揃い巡行・神輿揃い渡御の他、和太鼓演奏、民踊輪おどり、阿波踊りなどが行われました。西口では西口夏まつり(七月三十一日)とスパークカーニバル(八月一日)が開催され、神輿揃い渡御やよさこい踊り、サンバパレードなどが行われました。



山車揃い巡行



神輿揃い渡御



阿波踊り



高張提灯パレード



サンバパレード



神輿揃い渡御

写真提供：さいたま観光国際協会

## 奉納御礼

例祭に際し左記の皆様より奉納を頂きました。御篤志に感謝申し上げます。  
(順不同敬称略)

### 清酒

(株)中村写真館  
さいたま商工会議所

会頭 池田一義

(株)武蔵野銀行

頭取 長堀和正

(株)電成社

解脱会  
サン・アドニス(有)

石田和美

(株)和泉空調設備

(株)サンベルクス

代表取締役 鈴木秀夫

(株)不動テトラ北関東支店

支店長 星克俊

(株)榮太樓總本舗

みずほ証券(株)

saintarrowone

葵原信祐

丸三屋

大島文子

貴田容子

高木洋明

篠竹静子

吉田一也

由香里 有吾 有実

池垣彰治

箭弓稲荷神社

宮司 前原利雄

菓子  
西瓜  
(有)渡辺青果店



神幸祭齋行



出御



修祓



神楽奉奏



献饌



渡御



直会



還御

八月二日午後三時、神幸祭を齋行致しました。旧神領地の六町内(堀の内、土手、大成、上落合、新開、東大成)の氏子有志、また氏子青年会あわせ約一〇〇名の皆様に興丁奉仕を頂き神輿渡御、神橋にて橋上祭を行いました。

橋上祭は神輿を奉安した後、開扉、献饌、祝詞奏上、神楽奉奏、玉串拝礼と続きます。祭典の最後には、特殊神饌としてお供えした小麦御飯と直酒を祭員が直会として頂きます。

祭事曆

当社では毎日の日供祭をはじめ年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穰と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

七月 一日 月次祭

天皇皇后両陛下  
還幸啓奉告祭

十五日 献詠祭(兼題 炎天)

三十一日 例祭前日祭

八月 一日 例祭

二日 神幸祭

十五日 献詠祭(兼題 立秋)

埼玉縣護國神社みたま祭

九月 一日 月次祭

十五日 献詠祭(兼題 栗拾い)

敬老祭

二十三日 秋季皇霊祭遙拝式

秋分祭

神社で用いられる榊の持つ意味



人長の舞



例祭太玉串



門幣



修祓 榊の大麻

榊といえば、現在は一般的にツバキ科の常緑樹の事をいいます。しかし古くは、常緑樹の総称としても使われていました。青々と生い茂る樹木は、いわば生命力の象徴でもあり、生気を宿すものとも考えられ、玉串として御神前にお供えしたり、大麻としてお祓いに使ったり、神籬として神が宿る依代としたり、採り物として舞人の手草に使われたり、様々な神事においても用いられてきました。

古事記や日本書紀の神話にも八百万の神々が天の岩屋にお隠れになった天照大御神に対して行った祭事で玉や鏡や幣を掛けた五百津眞賢木が用いられています。

玉串とは榊の小枝に麻などで、古来神聖なもの、清らかなものを表すために紙垂を付けたもので、神に敬意を表し、且つ神威を受けるために祈念を込めて捧げるものとされています。例祭で勅使が捧げる玉串は二尺五寸(約75cm)の長さで紅白の絹を付けています。

また、当社では榊の小枝に麻をつけて、門幣として楼門や鳥居、社殿などの柱に付け、清浄である事を表しています。

榊の植生していない地域では、同じツバキ科の桧を用いたり、杉や樅、檜などが用いられます。



社頭往来①

さいたま市職場体験



さいたま市中学生職場体験事業「未来くるワーク体験」で七月三日から五日まで大宮北中学校の生徒四名、七月五日から七日まで大成中学校の生徒四名を受け入れました。境内清掃や御札の授与の他、最終日には舞殿にて豊栄の舞を奉奏頂きました。

全国氏子青年協議会大会

七月八日、全国氏子青年協議会の第六十一回東京大会が行われ、当社氏子青年会から十四名が参加致しました。大会前日には上総國一宮玉前神社(千葉)を正式参拝致しました。



例祭前清掃奉仕

七月二十七日午前九時より例祭前の神域清掃奉仕が行われました。本年の奉仕者は当番町内である上落合、新開の氏子の他、氏子青年会、敬神婦人会、八雲睦会あわせ約一〇〇名の皆様で

本殿周辺や楼門、廻廊、撰末社、勅使館などの清掃を行って頂きました。



武蔵野銀行小麦奉納



七月二十七日、小麦を奉納の武蔵野銀行様御参列のもと、奉納奉告参拝を行いました。こちらの小麦は、見沼田んぼを舞台にさいたま市内での小麦の地産地消を推進する事が目的の「見沼 田んぼ 小麦」6次産業創造プロジェクトの小麦です。

鳥居奉納奉告祭

八月二十日、末社の稲荷神社に鳥居の奉納を頂いた萩原博子様御参列のもと、奉納奉告祭を行いました。



正月助勤説明会

八月二十七日、令和六年正月に御奉仕頂く助勤奉仕の希望者に向け説明会を実施致しました。一日から七日まで男子二〇名、女子一三〇名募集の予定です。



社頭往来②

宮の舞

八月二十七日、正式参拝の後、舞殿にて珊瑚ノ宮会員により宮の舞が奉奏されました。



柳生心眼流奉納演武

九月三日、正式参拝の後、柳生心眼流兵法柳正館会員により演武が奉納されました。



こいたま市職場体験

さいたま市中学生職場体験事業「未来くるワーク体験」で九月五日から七日まで与野東中学校の生徒四名、九月六日から八日まで大宮土呂中学校の生徒四名を受け入れました。



全国敬神婦人会大会

宮崎県にて第七十三回全国敬神婦人大会の開催にあたり、九月十一日から十三日までの日程で研修旅行を実施、当社敬神婦人会より十三名が参加、また大会前に宮崎神宮を正式参拝致しました。



吟道奉賛会



表千家献茶式

九月十七日、日本吟道奉賛会が正式参拝の後、呉竹荘にて第四十六回吟詠剣詩舞奉納大会を行いました。

九月二十三日、表千家同門会埼玉県支部献茶奉賛会による献茶式が執り行われ、御家元猶有齋千宗左宗匠のご奉仕にて神水による濃茶薄茶が神前に点じられました。また、茶席には約二〇名の参会者がありました。





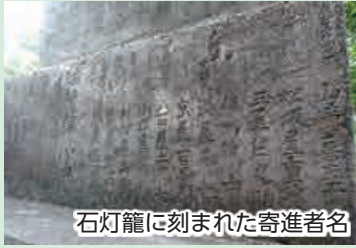
## 江戸幕府と氷川神社 大宮宿

二の鳥居前に一对の石燈籠が立っています。この石燈籠は嘉永六年（一八五三）のもので、大宮宿や周辺の村の人々の名はもとより、遠くは江戸の人たちの名前も読み取る事が出来、車力信心中という団体の名も目を引きます。車力とは大八車などの荷車で運送を生業とする人の事です。大宮宿は中山道のみならず、日光街道千住宿に通じる大宮千住道や与野・川越・原市・岩槻を結ぶ道の起点でもありました。

石燈籠には約四五〇名の寄進者の名が刻まれています。そのなかに本陣の山崎喜左衛門の名もあります。明治天皇は明治元年の氷川神社御親祭が終わると山崎家で昼餐をとられています。

大宮宿は寛永五年（一六二八）に新しく開かれたことから地子（年貢）が免除され、人を呼び込む政策がとられました。その後、人の移動や物流が盛んになると宿場の義務である伝馬宿継が大きな負担となりました。幕府は宿人馬の不足を補う助郷などを取り決めましたが解決には至らず、明治初期の伝馬制度廃止まで大宮宿の人々は苦勞を重ねました。

交通の要衝として発展した大宮宿。明治となり、鉄道が交通の中心となっていくしますが、明治十八年に大宮にも駅が開設され「鉄道のまち」として大きく発展していく事になります。



石灯籠に刻まれた寄進者名



二の鳥居前の石灯籠

## 分社紹介 上古寺氷川神社 一八百万の神が対象のエンエンワ

鎮座地 埼玉県小川町上古寺五六六

全国の神社に祭の音が戻ってきました。約二八〇社ある氷川神社の分社、その中から珍しいお祭りを伝える小川町の分社を御紹介致します。



社殿



祭典

写真提供：小川町教育委員会

由緒 創建は、齋明天皇五年（659）に、役小角が都幾山から望んだ景色を賞で、かつ靈感を得たので祠を建て、武蔵一宮氷川神社の分霊を勧請した。そして、自作の木彫りの神像を奉安し、当地の繁栄鎮護の祈念を行ったと伝える。

エンエンワとは 秋の例大祭に行われる因縁和（圓圓和とも）は、その発祥を鎌倉時代以前からとも、守邦親王が東王寺に寓していた時に比叡山に伝わる延年舞を模して行ったとも伝えられている。行事の次第は、例大祭の玉串奉奠の後、白装束に身を包んだ男児二名が御末社に夕御饌の献膳を行う。献膳が終わると、次に全国六十余州の一の宮の大神への奉献「中道廻りの式」に移る。氏子一同は揃って本殿に拝礼を行ってから神社の外側へ左から歩を進め中道に入る。かつては長老を先頭に日像・月像の旗が漸行し、法螺貝を吹き鳴らしながら進んだという。中道に入ると、まず先達が代々伝わる「因縁和式目」に従って大声で唱える。大神ごとに氏子一同が「えんえんわ」と集落中に響き渡るような大声で後に続けて唱和し、献散（散供）の者が、萱の簀で赤飯と黍を空高く投げ上げて大神に奉献する。一周して、最後に大鳥居の所で当社氷川大神の唱和をして終了する。



# 鉄道のみち 大宮

令和五年現在、大宮駅はＪＲ・東武鉄道・ニューシャトルの三社が入るターミナル駅です。東北新幹線や京浜東北線などのＪＲ線、東武アーバンパークライン、ニューシャトルの十二路線が乗り入れ、路線の規模としては、東京駅に次いで全国で二番目に大きい駅となっています。

埼玉県に初めて開通した鉄道は明治十六年（一八八三）の日本鉄道上野・熊谷間（現ＪＲ高崎線）で、大宮駅は明治十八年に開設、同年大宮・宇都宮間（現ＪＲ宇都宮線）が開通しました。人の移動のみならず物資の運搬により諸産業が発展し、明治二十七年十二月十日には日本鉄道大宮工場が大湯祭を期して操業を開始しました。当初の職工数は三三九人でしたが三年後には一三六九人と拡大しました。明治三十九年の鉄道国有法により日本鉄道株式会社は国有化、大宮工場も明治四十年、帝国鉄道庁大宮工場となり、鉄道のまちとして飛躍していきました。

【参考】大宮市史四巻481〜506ページ



大正三年 大宮駅待合所正面

写真提供：さいたま市アーカイブズセンター



明治三十二年 大宮鉄道工場全景

写真提供：JR東日本大宮支社

# 大保神社と庚申神社

国鉄の大宮保線区（現ＪＲ東日本大宮保線技術センター）から名を取った大保神社。昭和初期、鉄道職員は政府の官吏減俸政策に対し総辞職で対抗、一定の成果を得て妥結しました。大宮保線区職員は返却された三一人の辞職願を御神体とする異色の神社を建立、拳骨神社と呼んでおりました。昭和四十五年には、新たに大宮保線区で殉職した職員の御霊を合祀して犠牲者の冥福を祈り、併せて死傷事故絶滅を祈願するために大保神社と改称しました。現在は令和四年に新設されたＪＲ東日本大宮設備総合事務所の敷地内に遷座され、社員の安全の守護神となっています。

庚申神社は、もともと大宮駅構内にあった猿田彦命を祀る祠を遷した神社です。庚申信仰は、神道では猿田彦命と結びついて道祖神信仰と同一と考えられ、村境などに祀り防疫や旅行安全、交通安全などが祈念されました。大宮駅の庚申祠は拡張工事により度々移転させられましたが、元の祠のあった場所で鉄道事故が多発したため、祟りを恐れた鉄道職員と地元有志により明治三十七年に鐘塚公園の所に社を建て安置、昭和六十年に現在地に遷座しました。同社の神輿は大宮駅西口の夏まつりの際に、ＪＲ東日本大宮支社の社員により担がれており、本年は四年ぶりに渡御が行われました。



大保神社



庚申神社



J R社員が担ぐ庚申神社の神輿



七月の奉納献華



豊草俊理 岩波  
花俊草山 沖山  
智理川嶋

池坊  
桂古流  
桂古流

花智草谷  
花俊華林  
花典橋高

八月の奉納献華



豊草俊理 岩波  
花俊草山 沖山

桂古流  
桂古流  
草月流  
正風流

花俊華林  
花典橋高  
峰尚下竹  
光一桐生

九月の奉納献華



藤会松古  
池坊  
草月流  
桂古流

桂古流  
草月流  
正風流

豊草俊理 岩波  
花俊草山 沖山  
花俊華林 小林

花典橋高  
峰尚下竹  
光一桐生

稻荷神社修繕工事

境内の末社、稻荷神社の修繕工事が完了致しました。この度、川元麻実子様の御奉納により、施工を株式会社菱匠に依頼し屋根上軒天補修や内外部の塗装などを行いました。



参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様の方名を紹介し、謹んで御篤志に感謝申し上げます。  
(五十音順、敬称略)

- ・阿含宗埼玉道場
- ・大宮明るい社会づくりの会
- ・みずほ証券株式会社
- ・武蔵コーポレーション株式会社
- ・明治安田生命大宮西営業所

正式参拝及び諸会議

(敬称略)

七月 九日 祭典年番会議

九日 埼玉中央JC

十日 武蔵菊花会菊作り研修会

十四日 埼玉中小企業家同友会

十五日 埼玉県知事大野元裕

十七日 婚礼展示会

二十四日 神社庁雅楽講習会

二十七日 例祭前氏子清掃奉仕

八月 七日 武蔵菊花会菊作り研修会

十七日 二宮神社分祀奉告祭

二十五日 神道婦人会研修会

二十七日 正月助勤説明会

二十七日 珊瑚ノ宮

二十九日 北足立支部役員会

九月 一日 参道対策会議

三日 柳生心眼流兵法柳正館

三日 安達太良神社奉賛会

青年部

十二日 神社庁雅楽祭祀舞研修会

十五日 責任役員会

十五日 敬神講社理事会評議員会

十七日 日本吟道奉賛会

埼玉地方本部

大宮茶道連盟

十七日 武蔵菊花会菊作り研修会

二十三日 明日のさいたまを創る会



観月雅楽演奏会

- 日程 十月二十五日(水)
- 開演 午後六時
- 会場 舞殿
- 曲目 神楽 豊栄の舞  
浦安の舞

管絃 杵越調音取

酒胡子

胡飲酒破

舞楽

蘭陵王

落蹲※

※一人で舞う納曾利の事



武蔵菊花会菊花展

- 日程 十一月一日(水)～十一月十五日(水)
- 会場 楼門内廻廊、舞殿他
- 内容 ダルマ、福助、盆養、懸崖、切花、盆栽等



大湯祭で授与している種銭について

十二月十日の大湯祭では弁天島(宗像神社)にて種銭の授与を行っています。種銭は福德財運の元手(種)になる「銭」で、お納め頂いたお賽銭の一部をお返しし、種銭として豊かに実るようにお使い頂き、年々増やして頂くという信仰です。

近年では真新しい硬貨を準備し種銭としてお分けしていますが、電子マネーなど現金以外の決済手段が一般にも浸透し、造幣局でも新しい硬貨の製造数が少なくなり、種銭としてご用意する事が困難になって参りました。

かつては古い硬貨ほど世の中を流通したため、良い種としてお頒ちしていました。今後はその方向で用意する事も検討しています。

大湯祭では新たに金運守の授与を開始致します



金運が上昇し、お金を呼ぶ御利益がありますようご祈禱されております。

初穂料 七〇〇円

授与期間 十一月三十日

～十二月十日





令和6年の厄年(数え年)

数え年		前厄	本厄	後厄	数え年		前厄	本厄	後厄
男の厄	25才	平成13年	平成12年	平成11年	女の厄	19才	平成19年	平成18年	平成17年
男の大厄	42才	昭和59年	昭和58年	昭和57年	女の大厄	33才	平成5年	平成4年	平成3年
男女厄	61才	昭和40年	昭和39年	昭和38年	女の小厄	37才	昭和64年 平成元	昭和63年	昭和62年

令和6年の方位除(数え年)

中央(八方除)			北		北 東		南 西				
大正	14年	100才	昭和	4年	96才	昭和	6年	94才	昭和	3年	97才
昭和	9年	91才		13年	87才		15年	85才		12年	88才
	18年	82才		22年	78才		24年	76才		21年	79才
	27年	73才		31年	69才		33年	67才		30年	70才
	36年	64才		40年	60才		42年	58才		39年	61才
	45年	55才		49年	51才		51年	49才		48年	52才
	54年	46才		58年	42才		60年	40才		57年	43才
63年	37才	平成		4年	33才		平成	6年		31才	平成
平成	9年		28才	13年	24才	15年		22才	12年	25才	
	18年		19才	22年	15才	24年		13才	21年	16才	
	27年		10才	31年 元	6才	令和		3年	4才	30年	

第二十八号は令和六年一月十五日発行予定です



特別紙朱印「幸せへの道」

11月1日授与開始



特別紙朱印「前斎(左)」「本祭の賑い(右)」

11月30日授与開始



正月特別紙朱印

1月1日授与開始

最新のお知らせはホームページ、SNSで御案内致します。正月(1/1~8)は帳面への記入は行っておりません。特別紙朱印、新規帳面のみの授与となります。



ホームページ



Instagram



X (旧Twitter)

発行 令和5年10月15日 発行所 氷川神社社務所

写真協力 上古寺氷川神社 宮野信昭 中村写真館 工藤裕之 印刷所 株式会社 秀飯舎  
さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137 <https://musashiichinomiya-hikawa.or.jp>